# 2022 年 8 月のおでかけ指数

~第7波の影響続く

2022年9月16日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD(https://datasalad.jp/)では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(https://odekake-watcher.info/)の掲載データ<sup>1</sup>の一部を集約した「おでかけ指数<sup>2</sup>」により、2022 年 8 月における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD上では、来訪地側(着地側)と発地側の 2 種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



## 1. 全国の8月のおでかけ指数: 感染拡大第7波で回復鈍化

2022 年 8 月における全国のおでかけ指数は 61.4 となった (図 1)。前年比で+57.0%と 9 カ月連続で前年を上回り、プラス幅は 7 月よりも拡大した。一方、2019 年同月比では▲47.8%と 2 カ月連続でマイナス幅が拡大した (図 2)。総じて、人流は新型コロナ第 5 波の影響があった前年を上回ってはいるものの、第 7 波によって回復傾向が鈍化している。ただ第 7 波は 8 月下旬にはピークアウトしており、今後は再び回復傾向が強まるとみられる。

## 図1 おでかけ指数の月次推移(全国)

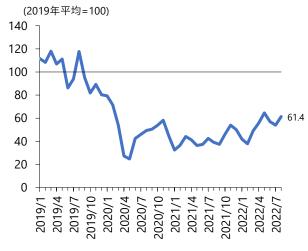


図2 おでかけ指数前年比・2019年同月比(全国)



注) 2022 年 9 月 11 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

 $<sup>^2</sup>$  おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年の日平均を 100 とした指数である。







 $<sup>^{1}</sup>$  「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー(月間 2,500 万 MAU)のスマートフォンから取得したものである。

# 2. 地域ブロック別のおでかけ指数: 首都圏および近郊を中心に悪化

2022 年8月のおでかけ指数を12の地域ブロック別にみると、前月までと同様に全地域で前年比はプラスで あり、また沖縄を除く全地域で前月よりもその幅が拡大した(表1、表2)。一方で2019年同月比は全地域で 前月よりもマイナス幅が拡大しており、人流回復鈍化は全国共通である。そのなかで、北海道(▲35.7%)や 四国(▲41.0%)、九州(▲41.0%) は相対的ながらマイナス幅が小さく、回復の水準が高い。2019 年同月比 のマイナス幅拡大は甲信越、東北、北陸などで顕著であり、これまで首都圏(南関東)からの人流回復が進ん でいた地域で第7波の影響が大きく表れている。

	2022年				
地域		前年比	2019年		
	8月	טין — ניס	同月比		
全国	61.4	+ 57.0%	<b>▲</b> 47.8%		
北海道	96.2	+ 44.2%	▲ 35.7%		
東北	78.7	+ 42.1%	<b>▲</b> 45.3%		
北関東	71.3	+ 55.3%	<b>4</b> 4.6%		
南関東	47.9	+ 67.5%	▲ 54.0%		
甲信越	88.2	+ 51.0%	<b>4</b> 4.6%		
東海	64.1	+ 50.8%	<b>4</b> 6.8%		
北陸	71.5	+ 57.1%	<b>▲</b> 48.7%		
近畿	57.1	+ 51.9%	<b>4</b> 8.5%		
中国	71.6	+ 57.7%	<b>▲</b> 43.7%		
四国	77.4	+ 58.6%	<b>4</b> 1.0%		
九州	69.4	+ 64.5%	<b>4</b> 1.0%		
沖縄	61.6	+ 108.8%	▲ 48.8%		

表1 地域ブロック別おでかけ指数

注) 2022 年 9 月 11 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

## 表 2 地域ブロック別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

<指数順>

<2019年同月比順>

順位	地域	2022年 8月	前年比	2019年	
1	北海道	96.2	+ 44.2%	▲ 35.7%	
2	甲信越	88.2	+ 51.0%	<b>4</b> 4.6%	
3	東北	78.7	+ 42.1%	<b>▲</b> 45.3%	
4	四国	77.4	+ 58.6%	<b>▲</b> 41.0%	
5	中国	71.6	+ 57.7%	<b>▲</b> 43.7%	
6	北陸	71.5	+ 57.1%	<b>▲</b> 48.7%	
7	北関東	71.3	+ 55.3%	<b>4</b> 4.6%	
8	九州	69.4	+ 64.5%	<b>▲</b> 41.0%	
9	東海	64.1	+ 50.8%	<b>▲</b> 46.8%	
10	沖縄	61.6	+ 108.8%	<b>4</b> 8.8%	
11	近畿	57.1	+ 51.9%	<b>▲</b> 48.5%	
12	南関東	47.9	+ 67.5%	<b>▲</b> 54.0%	

順位	地域	2022年 8月	前年比	2019年	
1	北海道	96.2	+ 44.2%	<b>▲</b> 35.7%	
2	九州	69.4	+ 64.5%	<b>▲</b> 41.0%	
3	四国	77.4	+ 58.6%	<b>▲</b> 41.0%	
4	中国	71.6	+ 57.7%	<b>▲</b> 43.7%	
5	北関東	71.3	+ 55.3%	<b>4</b> 4.6%	
6	甲信越	88.2	+ 51.0%	<b>4</b> 4.6%	
7	東北	78.7	+ 42.1%	<b>▲</b> 45.3%	
8	東海	64.1	+ 50.8%	<b>4</b> 6.8%	
9	近畿	57.1	+ 51.9%	<b>▲</b> 48.5%	
10	北陸	71.5	+ 57.1%	<b>▲</b> 48.7%	
11	沖縄	61.6	+ 108.8%	<b>▲</b> 48.8%	
12	南関東	47.9	+ 67.5%	▲ 54.0%	

注) 2022 年 9 月 11 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD





# 3. 都道府県別のおでかけ指数: 前月に続き、全都道府県で悪化

2022 年 8 月のおでかけ指数を 47 都道府県別にみると、全都道府県で前年比はプラス、2019 年同月比はマイナスとなった(表 3、表 4)。前月までと同様、指数の上位には北海道(96.2)、長野県(92.8)、山梨県(92.5)など東日本の地方圏が並ぶ。また指数の下位には東京都(44.9)、大阪府(50.0)、神奈川県(52.5)など三大都市およびその周辺の都府県が並ぶ。2019 年同月比は全都道府県で前月よりもマイナス幅が拡大し、最高でも北海道の▲35.7%にとどまった。

表 3 都道府県別おでかけ指数

地域	2022年8月	前年比	2019年同月比	地域	2022年8月	前年比	2019年同月比
全国	61.4	+ 57.0%	<b>▲</b> 47.8%	三重県	62.0	+ 37.5%	<b>▲</b> 47.6%
北海道	96.2	+ 44.2%	▲ 35.7%	滋賀県	66.6	+ 47.0%	<b>▲</b> 45.6%
青森県	90.5	+ 40.5%	<b>▲</b> 45.1%	京都府	59.0	+ 64.8%	<b>4</b> 4.0%
岩手県	85.5	+ 51.3%	<b>▲</b> 41.1%	大阪府	50.0	+ 59.2%	▲ 52.7%
宮城県	67.5	+ 44.2%	<b>4</b> 6.8%	兵庫県	59.9	+ 45.0%	<b>▲</b> 48.8%
秋田県	84.5	+ 29.4%	<b>4</b> 6.8%	奈良県	67.7	+ 38.7%	▲ 39.8%
山形県	76.5	+ 29.7%	<b>4</b> 9.0%	和歌山県	78.3	+ 26.9%	<b>▲</b> 41.6%
福島県	78.7	+ 49.1%	<b>4</b> 4.2%	鳥取県	77.5	+ 55.6%	<b>▲</b> 48.4%
茨城県	66.7	+ 50.9%	<b>▲</b> 45.2%	島根県	72.4	+ 48.7%	<b>▲</b> 45.2%
栃木県	71.5	+ 55.1%	<b>4</b> 5.5%	岡山県	67.8	+ 56.2%	<b>▲</b> 45.0%
群馬県	77.0	+ 60.4%	<b>4</b> 3.0%	広島県	69.7	+ 66.3%	<b>▲</b> 42.6%
埼玉県	54.4	+ 43.2%	▲ 52.3%	山口県	78.9	+ 50.0%	▲ 39.9%
千葉県	55.8	+ 50.8%	▲ 53.3%	徳島県	74.7	+ 50.3%	<b>▲</b> 43.4%
東京都	44.9	+ 78.2%	<b>▲</b> 54.5%	香川県	72.9	+ 71.9%	<b>▲</b> 42.3%
神奈川県	52.5	+ 59.6%	▲ 53.5%	愛媛県	75.4	+ 58.1%	<b>▲</b> 42.0%
新潟県	80.6	+ 35.5%	<b>4</b> 44.7%	高知県	88.5	+ 54.2%	▲ 36.1%
富山県	73.9	+ 54.6%	<b>▲</b> 45.3%	福岡県	64.4	+ 67.7%	<b>▲</b> 42.1%
石川県	66.5	+ 65.4%	▲ 50.3%	佐賀県	64.9	+ 58.7%	<b>▲</b> 41.8%
福井県	78.1	+ 47.9%	<b>4</b> 9.0%	長崎県	72.2	+ 75.2%	<b>▲</b> 45.1%
山梨県	92.5	+ 63.4%	<b>▲</b> 46.1%	熊本県	77.6	+ 59.7%	▲ 37.8%
長野県	92.8	+ 58.9%	<b>▲</b> 43.6%	大分県	79.0	+ 60.6%	<b>▲</b> 36.5%
岐阜県	80.2	+ 52.8%	<b>4</b> 0.3%	宮崎県	77.1	+ 61.3%	▲ 36.9%
静岡県	68.6	+ 55.6%	<b>4</b> 9.0%	鹿児島県	70.8	+ 59.1%	<b>▲</b> 43.1%
愛知県	57.6	+ 50.8%	<b>▲</b> 46.7%	沖縄県	61.6	+ 108.8%	<b>▲</b> 48.8%

注) 2022 年 9 月 11 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD







# 表 4 都道府県別おでかけ指数 指数・2019 年同月比によるソート

<指数順>

<2019年同月比順>

順位	地域	2022年8月	  前年比	2019年同月比	順位	地域	2022年8月	前年比	2019年同月比
	北海道	96.2	+ 44.2%	<b>▲</b> 35.7%	1	 北海道	96.2	<u> </u>	▲ 35.7%
2		92.8	+ 58.9%	▲ 43.6%		高知県	88.5	+ 54.2%	▲ 35.7 % ▲ 36.1%
3	山梨県	92.5	+ 63.4%	<b>▲</b> 46.1%		大分県	79.0	+ 60.6%	▲ 36.1%
4		90.5	+ 40.5%	<b>▲</b> 45.1%		スカ宗 宮崎県	77.1	+ 61.3%	▲ 36.9%
5		88.5	+ 54.2%	<b>▲</b> 36.1%		古啊乐 熊本県	77.1	+ 59.7%	<b>▲</b> 30.9%
6		85.5	+ 51.3%	<b>▲</b> 41.1%		奈良県	67.7	+ 38.7%	<b>▲</b> 37.8%
		84.5	+ 29.4%	<b>▲</b> 46.8%		山口県	78.9	+ 50.0%	▲ 39.8%
		80.6	+ 35.5%	<b>▲</b> 44.7%		岐阜県	80.2	+ 52.8%	<b>▲</b> 40.3%
	岐阜県	80.2	+ 52.8%	<b>▲</b> 40.3%		岩手県	85.5	+ 51.3%	<b>▲</b> 41.1%
	大分県	79.0	+ 60.6%	<b>▲</b> 36.5%		和歌山県	78.3	+ 26.9%	<b>▲</b> 41.1%
	山口県	78.9	+ 50.0%	<b>▲</b> 39.9%		佐賀県	64.9	+ 58.7%	<b>▲</b> 41.8%
	福島県	78.7	+ 49.1%	<b>▲</b> 44.2%		<b>愛媛県</b>	75.4	+ 58.1%	<b>▲</b> 42.0%
	和歌山県	78.3	+ 26.9%	<b>▲</b> 41.6%		福岡県	64.4	+ 67.7%	<b>▲</b> 42.1%
	福井県	78.1	+ 47.9%	<b>▲</b> 49.0%		香川県	72.9	+ 71.9%	<b>▲</b> 42.3%
	熊本県	77.6	+ 59.7%	<b>▲</b> 37.8%		広島県	69.7	+ 66.3%	<b>▲</b> 42.6%
	鳥取県	77.5	+ 55.6%	<b>▲</b> 48.4%		群馬県	77.0	+ 60.4%	<b>▲</b> 43.0%
		77.1	+ 61.3%	<b>▲</b> 36.9%		鹿児島県	70.8	+ 59.1%	<b>▲</b> 43.0%
	群馬県	77.0	+ 60.4%	<b>▲</b> 43.0%		徳島県	74.7	+ 50.3%	<b>▲</b> 43.4%
	山形県	76.5	+ 29.7%	<b>▲</b> 49.0%		長野県	92.8	+ 58.9%	<b>▲</b> 43.6%
	愛媛県	75.4	+ 58.1%	<b>▲</b> 42.0%		京都府	59.0	+ 64.8%	<b>▲</b> 44.0%
	徳島県	74.7	+ 50.3%	<b>▲</b> 43.4%		福島県	78.7	+ 49.1%	<b>▲</b> 44.2%
	富山県	73.9	+ 54.6%	<b>▲</b> 45.3%		新潟県	80.6	+ 35.5%	<b>▲</b> 44.7%
	香川県	72.9	+ 71.9%	<b>▲</b> 42.3%		岡山県	67.8	+ 56.2%	<b>▲</b> 45.0%
24		72.4	+ 48.7%	<b>▲</b> 45.2%		青森県	90.5	+ 40.5%	<b>▲</b> 45.1%
	長崎県	72.2	+ 75.2%	<b>▲</b> 45.1%		長崎県	72.2	+ 75.2%	<b>▲</b> 45.1%
	栃木県	71.5	+ 55.1%	<b>▲</b> 45.5%		島根県	72.4	+ 48.7%	<b>▲</b> 45.1%
		70.8	+ 59.1%	<b>▲</b> 43.1%		茨城県	66.7	+ 50.9%	<b>▲</b> 45.2%
	広島県	69.7	+ 66.3%	<b>▲</b> 42.6%		富山県	73.9	+ 54.6%	<b>▲</b> 45.3%
	静岡県	68.6	+ 55.6%	<b>▲</b> 49.0%		断木県	71.5	+ 55.1%	<b>▲</b> 45.5%
	岡山県	67.8	+ 56.2%	<b>▲</b> 45.0%		滋賀県	66.6	+ 47.0%	<b>▲</b> 45.6%
	奈良県	67.7	+ 38.7%	<b>▲</b> 39.8%		山梨県	92.5	+ 63.4%	<b>▲</b> 46.1%
	宮城県	67.5	+ 44.2%			愛知県	57.6	+ 50.8%	<b>▲</b> 46.7%
	茨城県	66.7	+ 50.9%			秋田県	84.5	+ 29.4%	<b>▲</b> 46.8%
	滋賀県	66.6	+ 47.0%	<b>▲</b> 45.6%		宮城県	67.5	+ 44.2%	<b>▲</b> 46.8%
	石川県	66.5	+ 65.4%	<b>▲</b> 50.3%		三重県	62.0	+ 37.5%	<b>▲</b> 47.6%
	佐賀県	64.9	+ 58.7%	<b>4</b> 1.8%		ー 皇 取県	77.5	+ 55.6%	<b>▲</b> 48.4%
	福岡県	64.4	+ 67.7%	<b>▲</b> 42.1%		兵庫県	59.9	+ 45.0%	<b>▲</b> 48.8%
	三重県	62.0	+ 37.5%	<b>4</b> 7.6%		沖縄県	61.6	+ 108.8%	<b>▲</b> 48.8%
	沖縄県	61.6	+ 108.8%	<b>▲</b> 48.8%		山形県	76.5	+ 29.7%	<b>▲</b> 49.0%
	兵庫県	59.9	+ 45.0%	<b>▲</b> 48.8%		福井県	78.1	+ 47.9%	<b>▲</b> 49.0%
	京都府	59.0	+ 64.8%	<b>▲</b> 44.0%		静岡県	68.6	+ 55.6%	<b>▲</b> 49.0%
	愛知県	57.6	+ 50.8%	<b>▲</b> 46.7%		石川県	66.5	+ 65.4%	<b>▲</b> 50.3%
	千葉県	55.8	+ 50.8%	<b>▲</b> 53.3%		埼玉県	54.4	+ 43.2%	<b>▲</b> 52.3%
	埼玉県	54.4	+ 43.2%			大阪府	50.0	+ 59.2%	<b>▲</b> 52.7%
	神奈川県	52.5	+ 59.6%	<b>▲</b> 53.5%		千葉県	55.8		<b>▲</b> 53.3%
	大阪府	50.0	+ 59.2%			神奈川県	52.5	+ 59.6%	<b>▲</b> 53.5%
	東京都	44.9	+ 78.2%	<b>▲</b> 54.5%		東京都	44.9	+ 78.2%	<b>▲</b> 54.5%
47	本小即	44.9	1 70.270	<b>A</b> 34.370	4/	水水印	44.9	+ 78.2%	▲ 34.5%

注) 2022 年 9 月 11 日までのデータによる推計値

資料)九経調 DATASALAD

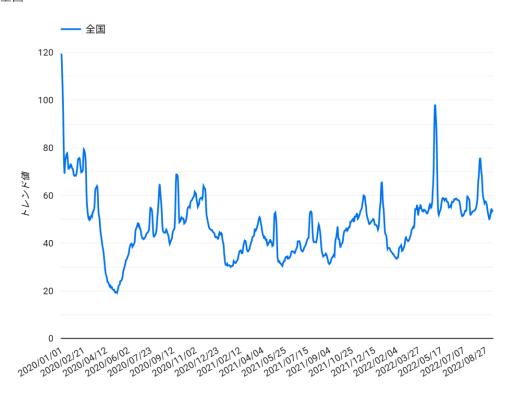




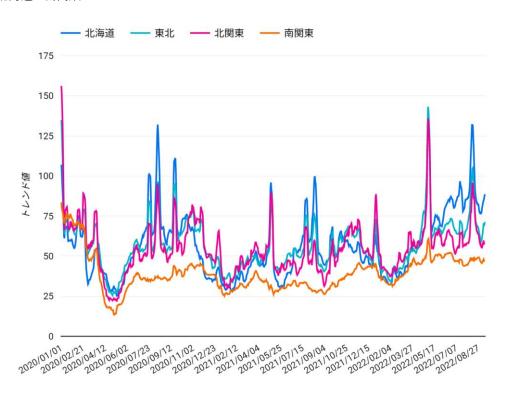


図5 地域ブロック別の日次推移(トレンド値)

<全国>



<北海道~南関東>

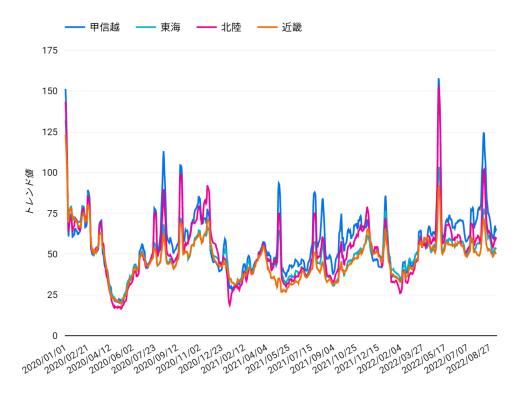




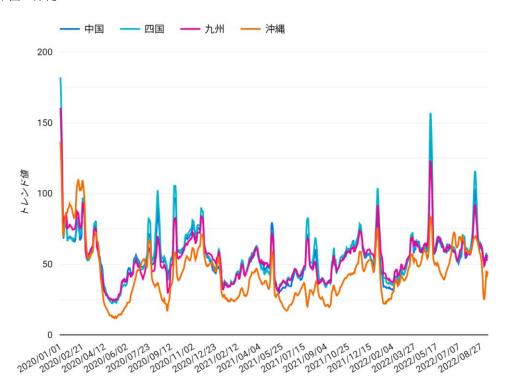




## <甲信越~近畿>



## <中国~沖縄>



注)2022 年 9 月 11 日までのデータによる推計値 資料)九経調 DATASALAD

小栁 真二 (事業開発部 主任研究員)

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp







## 参考:おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の2019年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側(着地側。ある市区町村への来訪者数)と、発地側(ある市区町村(居住地域とみなされる市区町村)からの出発者数)の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである(試作版のため、今後変更の可能性がある)。

#### ①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー(以下、OW)と同じく、毎週月~日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

#### ②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している(複数地点を訪れた場合も1人とカウント)。来訪地側(着地側)のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村(基礎自治体)がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点(2021年10月)に九経調がデフォルトとして設定したスポット(※)を対象としている。

※各市区町村において来訪者数 (2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数) が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接(メッシュ中心間の距離が 500m 以内)するメッシュは除外した

#### ③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

#### 4 指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

#### ⑤算出方法

各地域(市区町村や都道府県等)について、2019年の1日当たり平均人数を100として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を7日間周期のデータとみなし、トレンド成分(中長期的変動)、曜日成分(曜日による変動)、イベント成分(天候やイベント(催事)等による短期的変動。他の2つの残差)の3つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 = (各日人数÷2019年の1日当たり平均人数)×100日次(原数値)

トレンド値 = トレンド成分 = 原数値 - 曜日成分 - イベント成分

曜日調整値 = 原数値 - 曜日成分

### ⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域(離島等)が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019年において来訪者数・出発者数が計測される日が180日未満の自治体については指数を算出しない。





